

2017年度事業報告

はじめに

待機児童問題が社会問題として、大きく取り上げられて、国や自治体はいろいろ改善の措置をとりました。それでも、根本的にはほど遠い現況にあります。

国は私たちが望む配置基準の見直しや単価の引き上げということではなく「規制緩和」をすすめることで乗切ろうとしています。子どもの安全や安心を基本に据えることになっていません。

世田谷区は新設園が30園余増設し、父母の要望に応える姿勢を堅持し、今は空き家を利用した乳児対策に力を入れています。

三鷹市の待機児は新設園の増加などで微小ですが少なくなっています。それでも2000名余の待機児を抱えています。

国の施策である人材確保のための宿舍借上げ制度や処遇改善Ⅱについて、「基準」を作って借上げ制度の受入れを今期実施しました。

また、処遇改善Ⅱについても新年度から実施することにしました。

1 法人の重点課題

(1) みたか小鳥の森保育園分園の建設は、6月末に入札を実施し、五業者が参加しましたが、法人として設定した限度額より低い金額で落札された。

直後の近隣住民説明会を7月上旬に行い、出席者3名でした。幾つかの不安や要望が出されましたが、建設そのものに関するだけでなく、理解を得ました。

7月末に設計事務所、建設会社との三者による打合せを行いました。それは8月末の第2回から、2018年2月半ばまでの25回打合せ会議を行いました。より使い易い園舎づくりを行うことができ、「せたがや」の経験が十分生かすことができました。

(2) 2018年4月に3園になることにより、それぞれの園の円滑な運営ができるように分園長、主任等の昇格・異動人事の内示を8月に行い、翌年4月に向けて、既設園、分園の引継ぎや準備を行いました。

保育士、栄養士などの人員採用募集を8月初旬より始めました。

10月頃から面接希望者が来始め、7度に渡って行いました。その結果、社会一般から比べ採用は順調に内定者を得られました。法人の保育方針、環境などに対する共感が感じられました。

2 理事会

補正予算や分園の建設に必要な議決事項の議事を合わせるようにし、開催は概ね適切に行いました。前年度に比べ、約半分の開催で済ませることができました。

3 財政

(1) せたがや小鳥の森保育園建設時に福祉医療機構より借入した5,900万円は、2018年3月末現在、4,173万4,000円となって順調に借り入れ元金を減らしています。

(2) 分園の建設に福祉医療機構からの計画では最大9千万円としていましたが、実際は6,500万円でした。自己資金をあてても、年度内の建設会社、設計事務所への年度内の支払いや開設準備金など8千万円余が不足する状況にありました。そのため、「つなぎ資金」として理事、監事やその園の周辺にいる方に依頼して、予定をこえた資金を確保することができました。

(3) 今迄のことから本園園舎の修繕に資金をまわすことができず、小さな修繕にとどめざるを得ませんでした。これは深刻な問題としてあります。せたがやは運営に必要な軽微な修繕を行いました。

4 保育園の運営

(1) 園長・主任・職員のすべてが幼児保育をすることを打ち出しました。他の保育園への研修、自主学習などに積極的に取り組んでいました。この課題は永い期間の中で実現されるものであり、その一歩としてはできたといえます。

(2) みたかの本園、分園の一体的運営の課題は意識づけの意味でこれからのことになります。

5 賃金体系の改定について

期の前半に成案を作りあげ、秋に入って組合合同の交渉の場で説明し提案しました。組合員に対する説明にもれがないよう幾度となく説明会をもち、理解を求めました。その結果、両分会より提案を受入れるとの了承を得ました。

4月より新賃金体系で運営されることになりました。

6 宿舍借上げ制度、処遇改善Ⅱについて

宿舍借上げ制度の運用は、利用者が①持ち家でないこと、②住宅手当、交通費の不支給などの資格条件を決めて、実施しました。処遇改善Ⅱについて

はいろいろ問題を含んでおり、又分園建設に集中したこともあり導入しませんでした。併し小さくない金額であり無視し続けることはできません。

近隣の法人が受入れ始めており、賃金に格差が生じることを考え受入れを決め、次年度より実行することにしました。その際、支給基準を設け、できるだけ職員間で格差を少なくするようにするとしました。

7 地域との交流について

新しい施設周辺の住民との軋轢がないようコミュニケーション作りに留意し、近隣住民説明会出席の呼びかけチラシは広く100数十枚配布しました。戸建ての住民には会話をできるだけしました。

みたか本園での広場事業、夕涼み会、バザーはそれぞれ多くの保護者、住民の参加、協力を得て盛大に行われています。

せたがやは日本女子体育大学の行事への参加、施設の借用。一方で研修の受け入れなど定着しています。

区営アパートの住民の方たちとの清掃、そのことを通しての語らいがコミュニケーションを強めることになっています。